関係団体ヒアリング　文化・芸術分野（報告）

1　日　時　令和元年 7 月 30 日（火）　15：00～16：00
2　場　所　ブリックホール会議室１・２
3　団体名　長崎市文化振興審議会
4　参加者　長崎市文化振興審議会委員　14 名
　　関係所属　文化振興課　4 名　　合計 18 名

参加者の主なご意見

✿10 年前から良くなったこと✿

- （子どもたちにとって）色々なジャンルのワークショップの機会が増えた。（主催者にとってワークショップが当たり前となってきた。）
- 市民が芸術分野に触れる機会が増えた。また、ジャンルも広がり場所も広がった。閉ざされた場所で限られた人を対象にするものではなくなり、社会の成熟を感じる。
- （いけばなの）展示の場所が増えた。
- 子供たちが文化･芸術を体験する場が増えた。
- IT 技術により記録のしやすさが向上した。
- 指導者のレベルが向上しノウハウが蓄積された。
- 舞踊で言うなら、年数分の資料蓄積がなされて活かせるようになってきた。
- SNS の普及により広報がしやすくなった。
- 邦楽は学校で必ず扱うようになってきた。

✿10 年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- 指導者が圧倒的に不足しており、高齢化も進んでいる。

- 文学面での若い人の活動が見えてこない。
- 人が（特に若い人）が減っている。団体で活動する人が減っている。
- 美術では学校の先生が忙しすぎて活動に参加できない。
- 音楽に関しては練習場が不足している。（使わなくなった学校を活用するとかできないか）
- 学校で生演奏を子供たちに聴かせる機会があまりない。
- 文化芸術にかかる市の予算が削減されている。
- 音響の良いホールが存在していない。→市民が喜んで聞きたい、使ってみたいと思えるホールがない。→市民が良い音楽に触れる機会を逃している→市民の文化力が上がらない。という、悪循環が生じている。
- 舞踊も中学の授業のカリキュラムに入ったが、現場では実際の伝統的な舞踊に触れるわけではなく、一部ヒップホップのものに偏っている。
- 公会堂の廃止により発表する会場が減った。
- 指導者の高齢化。
- 地域の祭りで盆踊りが行われなくなった。
- 邦楽店が減った。三味線や琴の修理ができない。
- 芸術・文化の市の施策の範囲が狭く、ウェイトが薄い。
- 地方の学校ではあまり芸術・文化の取組みがない（都心部では一流の進学校になればなるほど取り組んでいる。）
- 近年、各団体で連帯意識の欠如や後継者が育っていない課題がある。

✿これから 10 年間、市にしてほしいこと✿

- 若い人たちに対する広報と声を聴いていってほしい。
- 子ども向けの取組みを更に充実させ、継続していくべき。
- 小学校の時はいろいろ体験型の取組みがあるが中学校になったら取り組まなくなるので、（原因はどこにあるかわからないが）市として取り組めることをしてほしい。
- 街並みをもっと美しくしてほしい。長期的に文化を育むことを考えるべき。
- 将来を担う子どもたちの遊びの場を作ってほしい。文化は習い事ではなく遊びから得られる文化。（学校跡地の活用も検討してはどうか）
- もっと自由度がある補助金の使い方を検討してほしい。
- 各分野ごとに柱となることが必要で、それをしっかりブランディングしていってほしい。市民と一緒に磨き上げていってほしい。
- 文化・芸術分野の予算配分を増やしてほしい。
- 文化・芸術を教育に取り入れる政策をもっと取り組んでほしい。
- 各種イベントを実施する場合は早い段階で審議会に意見を求めてほしい。
- 必要なところへ必要な予算をとってきてほしい。
- 新しい芸術劇場の基本構想は決まったが、市全体での既存施設や景観も含めて、トータルコーディネートを検討し続けてほしい。
- 各団体がそれぞれ努力することは大切だが、行政の協力も必要。リーダーとしての行政を望む。

✿これから 10 年間自分たちでしたいこと✿

- 文化は人から人に伝えるものだと思う。もっと出向いて行って、人とのつながりの中で教えていきたい。
- 子供たちの感受性を豊かにしていきたい。
- 発信の場を増やしていきたい。
- 若い人たちの発想を取り入れながら、活動していき、指導者を育成していきたい。
- 海外の人たちに日本の文化を伝え日本に逆輸入していきたい。（SNS 等も活用しながら）